

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	01-01-14-03	
事務事業名	不燃物前処理事業			
	平成12年度～	根拠法令・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	
事業開始年度	平成12年度～			
総合計画	大項目 基本目標	安全で快適に暮らせるまちづくり	問合せ先	環境課
	中項目 基本施策	生活しやすいまちづくり	職・氏名	衛生係長・森本和成
	小項目 施策	ごみ処理	電話	64-1821

事業の実施	
対象 (誰・何に対して)	備前地域の不燃ごみ
目的 (何のために)	最終処分場の延命
行政活動 (どのような方法で)	スチール缶・アルミ缶・びん(無色・茶色)の選別を行う。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	選別をすることで不燃ごみの再資源化を可能にし、埋立処分量を削減する。

事業の実績						
活動実績	実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	金属処理量	トン	396	363	260	
	びん処理量	トン	418	351	315	
	金属資源化量	トン	295	245	255	
	びん資源化量	トン	146	85	225	
	事業費		千円			
	直接事業費			31,919	26,171	28,205
	人件費			7,757	6,565	7,172
事業費計			39,676	32,736	35,377	
財源		千円				
国県支出金						
受益者負担			3481	4645	8674	
一般財源			36,195	28,091	26,703	
必要人員		人	1.90	1.35	1.09	
結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績		
不燃物前処理量	説明	金属処理量 + びん処理量				
結果指標	結果指標量	トン	814	714	575	
	対前年比	%	-	87.7%	80.5%	
	活動コスト	円	39,676,000	32,736,000	33,734,000	
	単位当たりコスト	円	48,742	45,849	58,668	
結果指標	資源化率	説明	金属資源化量 + びん資源化量 / 不燃物前処理量			
	結果指標量	%	54.18	46.22	83.48	
	対前年比	%	-	85.3%	180.6%	
	活動コスト	円				
単位当たりコスト	円					

事業の成果				
成果指標名	資源化率	式又は説明	金属資源化量 + びん資源化量 / 不燃物前処理量	
			17年度	18年度
成果指標量	54.18		46.22	83.48
対前年比			85.31%	180.62%
到達目標値	85	到達目標年度	平成25年度	



事業の目的、対象、内容を考えてから目的妥当性の評価を行って下さい。



事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。



事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	妥当性評価 <A-E>	B
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である		
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている		
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している	課題認識	関係法令に基づき作業を進めている。最終処分場の残容量が少なく、不燃ごみの選別を徹底して、資源化量を増やす必要がある。
	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある		
	<input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない		
行政活動	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない	効率性評価 <A-E>	D
	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である		
	<input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である		
事業の意図する成果	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい	課題認識	不燃物前処理委託事業は、下水道整備に伴う合特法の代替業務として委託業者と随意契約をしているので、コストをどう削減していくかが今後の課題である。
	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である		
	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい		
市の関与	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	有効性評価 <A-E>	B
	<input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難		
	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある		
コスト	<input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	課題認識	資源化率が大きく向上していて、埋立量が削減できた。
	<input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている		
	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
効率性の評価	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている	有効性評価 <A-E>	B
	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている		
	<input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい		
職場	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	課題認識	資源化率が大きく向上していて、埋立量が削減できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している		
	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上の見込みである		
目的達成度	<input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	有効性評価 <A-E>	B
	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している		
	<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している		
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	課題認識	資源化率が大きく向上していて、埋立量が削減できた。
	<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている		
	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する		
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する	課題認識	資源化率が大きく向上していて、埋立量が削減できた。
	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する		
	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する		

平成20年度の状況		説明	
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している	びんのコンテナ回収により作業量が減っている。資源化率は高い水準を保持している。	
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で真正・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量 600	結果指標量	85
成果指標量		成果指標量	85

総合評価		評価区分 <A-E>	C
作業量の減少に伴い、作業内容の見直しの必要がある。合特法による代替業務であるためコスト削減していくか考えなければならない。資源化率は大幅に上がっているため、処分場の延命や資源化物の売払収入の向上といった効果がでてきている。			

平成21年度以降の方向性	
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
	<input type="checkbox"/> 平成20年度で真正・完了

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	資源化率の更なる向上	H21	埋立量の削減と資源化物の売払収入の増
効率性	委託作業内容の変更	H22	コスト削減

